

江戸川区議会の定数削減を再考するよう求める陳情

(議会運営委員会付託)

受 理 番 号 第 1 3 7 号

受 理 年 月 日 令 和 4 年 1 2 月 8 日

付 託 年 月 日 令 和 5 年 2 月 2 1 日

陳 情 者
.

陳 情 原 文 現在江戸川区議会に、区議会議員の定数を削減するよう求める陳情が提出されており、当該陳情がもし採択されれば、少数意見を区議会に反映させる機会を奪われかねないと、危機感を抱くものであるとともに、江戸川区が掲げる「SDGs 未来都市」にも不可欠な要素である多様性を失う方向へと進むのではないかと危惧するものです。

区民の声が直接反映される行政とか、低い投票率の中から「民意」を読み取るべきではないというのは、江戸川区も含めた議会制民主主義の明らかな、かつ度し難い否定であり、主権者それぞれの意思が込められているはずの一票一票や、地方議会議員の存在そのものを嘲笑うかのような暴論と言えるのではないのでしょうか。

また、2019年に公表されている資料によれば、江戸川区における議員一人当たりの人口は15,565人で、これは23区の人口を合計して算出した議員一人当たりの人口である約9,600人を大きく上回っており、現状の定数44人はむしろ少ないと見るべきでしょう。この状況において「議員の方々の自主的な定数削減」を求めるとは、あえて刺激的な言葉を使えば「議会制民主主義への自死教唆」としか読み取れません。

私はもちろん、区民の声が直接届く行政をなんら否定するものではありませんが、それは議会制民主主義と相容れないものではなく、補完していくものであり、より良い社会を目指す上では十分に共存できるものであると考えています。

つきましては、貴議会において、議員定数の削減を再考していただきたく、下記のとおり陳情いたします。

記

江戸川区議会は、議員定数の削減に反対してください。